

新しく普及に移す農業技術

県では毎年新しく普及に移す農業技術を発表しています。作物の育て方や新品種・病気や害虫に効果のある殺菌剤や殺虫剤などを発表しています。年2回発表されますが、今月号には過去3年位の課題などを掲載しますので参考にしてください。

なお情報は一例です。他にもございますので不明な点は技術事項作成協力までお願いいたします。

平成24年度第1回分

（普及技術）

- ・ブルーベリー白紋羽病防除にフロンサイドSC土壤灌注は有効である。

ポイント フロンサイドSCの500倍液を1樹当たり50～100リットル土壤灌注する。

注意 早期発見、早期対策が重要で、被害の進んだ重症樹には効果が期待ができない。

- ・トマト・ミニトマトのオオタバコガ防除にデアナSCが有効である。

ポイント 2,500倍で散布する。

注意 ミツバチ等の巣箱およびその周辺にかからないようにする。蚕にも注意が必要

平成23年度

（普及技術）

- ・ブロッコリーの養分吸収特性に基づいた肥培管理法

ポイント ブロッコリーの窒素吸収は出蕾期前後にピークがあり、収穫期にかけて低下するため、窒素の肥効は出蕾期までに高める。窒素施肥量が過剰の場合、ホローステムの発生が増加するため、過剰な窒素施用は行わない。緩効性肥料と速効性肥料で収量・品質に差はないことから、経費面で速効性肥料が有効である。

注意 標準的な施肥量、生育条件で栽培したもので、条件により養分吸収量は変化する

ブロッコリー残渣を腐熟させるため、鋤き込んでから後作の定植をするまで最短でも10日から2週間を要する。残渣の分解は地温が高いと進み、残渣の肥効は降雨が多いほど低下する。

（技術情報）

- ・盛夏期のトマト施設栽培において高温対策用被覆資材の特性

ポイント 盛夏期のトマト施設栽培において、遮光率30%程度の被覆資材である「ふわふわ」および「クールホワイト」を利用することにより、無被覆に比べてトマト果実の表面温度と葉面温度が下がり、トマト生長点位置における施設内最高気温も低下する。

平成22年度

（技術情報）

- ・ズッキーニの着果促進にトマトーン液剤が有効である。

ポイント ズッキーニの着果促進にトマトーン液剤50倍液を雌花の開花当日に1回、柱頭基部まで濡れるように散布する。

- ・雑草性赤米の多発による栽培水稻の減収

ポイント 雑草性赤米の激発ほ場では栽培稲が最大25%減収する。

注意 近年被害面積が広がっています。怪しいと思ったら、JAや普及センターにご相談ください。



農業豆知識

平成 24 年の上田市内の気象経過とそれに伴う農作物への影響について

<4月の天候>

天気は数日の周期で変化しました。3日から4日にかけて風が強くなり、農業施設等にも被害が発生し、ビニールハウスなどが被害を受けました。下旬は気温の高い日が多くなり、上田では最高気温 29.3 を観測しました。

<5月の天候>

上空の寒気の影響で気温が上がらず、雷雨となった日が多くなりました。13日には上田市内でも降霜が確認され、農作物にも被害が出ました。下旬は、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。月降水量は例年の5割程度と少雨傾向でした。

<6月の天候>

天気は数日の周期で変わり、中旬には台風第4号が県内を通過しました。下旬は、高気圧に覆われ晴れた日が多くなり、日照時間が例年の約2倍になりました。ただし、22日は前線を伴った低気圧が太平洋沿岸を東に進んだため雷を伴った激しい雨が降り、上田市では30mm/日以上降水量を観測しました。

<7月の天候>

前半は、曇りや雨の日が多く、後半は晴れの日が多くなり気温が高くなりました。大気の状態が不安定となった影響で28日から29日にかけて大雨となり、上田市では1時間に40mmを超える激しい雨が降りました。また、中旬から下旬にかけて気温が高くなり猛暑日となった日がありました。

<8月の天候>

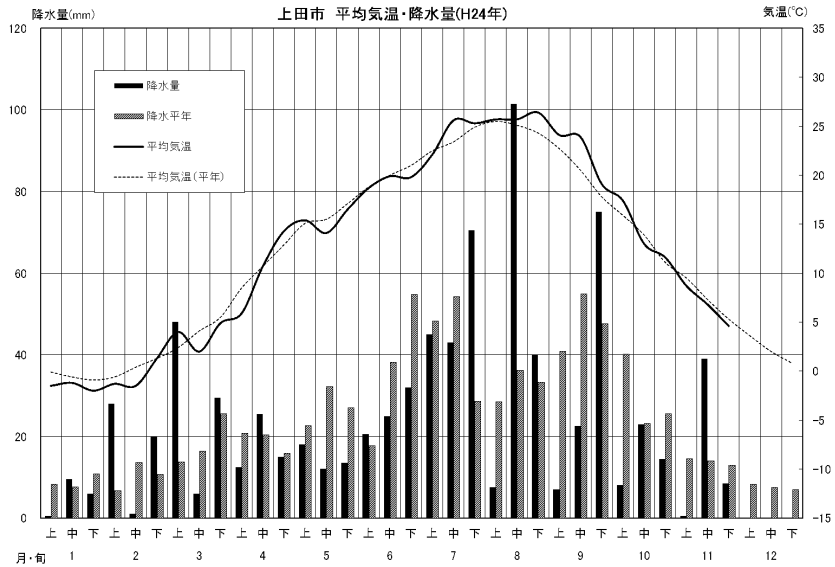
8月は高気圧に覆われ晴れて気温が高くなった日が多かったですが、午後を中心に大気の状態が不安定となって雨や雷雨となった日がありました。17日は、局地的に非常に激しい雨となり、降雹も観測され、リンゴなどの農作物に被害が発生しました。30日には非常に激しい雨となり、上田市では1時間に30mmの激しい降雨となりました。

<9月の天候>

勢力の非常に強い太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、厳しい残暑となりました。30日は、台風第17号が通過したため、夜は非常に激しい雨が降りました。太平洋高気圧の勢力は落ち着き顕著な高温状態は解消しましたが、平年より気温の高い状態が続きました。

<10月の天候>

10月は、高気圧に覆われ晴れた日が多くなりました。6日夜から7日未明にかけて上空の気圧の谷や寒気の影響で雨となりました。下旬は寒気や暖気の影響で気温の変動が大きくなりました。



水稲 初期は低温と日照不足により茎数が増えず生育不良でしたが、8月の登熟期に好天が続いたため、粒が大きくなり作況指数は97となりました。しかし収穫期に雨が降ったため刈り取りが遅れ、胴割れ米が多くなった所もありました。

野菜 5月の少雨で生育が遅れていましたが、6月以降回復し、露地葉野菜では豊作型となりました。一方で果菜類は夏期の高温により生育障害が発生する事態となってしまいました。

果樹 今年は大気の影響でブドウは収量、品質ともに良い年でした。リンゴも夏の好天で日焼け果が出たものの、玉のびも着果量も良く、全体的には豊作の年となりました。

花き 盆以降の高温により出荷が前倒しとなってしまい、全体的に単価、出荷量ともに前年を下回る結果となりました。また、丸子ではアブラムシによるウイルスの影響でフウセントウワタが大打撃を受けました。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
近藤・阿路 (E-mail: joshu-aec@pref.nagano.lg.jp)